

参考引用文献・図表リスト・研究業績一覧・謝辞

参考引用文献

第1章

- (1) 阿部一「日本空間の誕生 コスモロジー・風景・他界観」せりか書房、1995. 2
- (2) 石田頼房、他「新建築学体系18 集落計画」彰国社、1986. 2、p93～p189
- (3) 岸本實「人口地理学」大明堂、1980. 6
- (4) 岸本實「人口移動論 その地理学的研究」二宮書店、1978. 9
- (5) 後藤春彦「都市と農村を複眼的に眺める視座 21世紀都市田園論の序・高流動性社会に即した家族像」『都市と田園のグランドデザイン 21世紀都市・田園論』2001年度日本建築学会大会（関東）都市計画・農村計画部門研究懇談会資料、日本建築学会、2001. 9、p5～p12
- (6) 近藤隆二郎「環境イメージの発達過程における役割行為の意義と効果に関する基礎的研究」大阪大学学位論文、1994. 6
- (7) 齋藤広子「居住者による住環境の共同管理」『まちづくりの科学』鹿島出版会、p231～p241、1999. 9
- (8) 佐藤洋平「農村計画の内容」『農村計画学の展開』農村計画学会編、農林統計協会、1993. 11、p45～p53
- (9) 重村力「定住の構造 その生活学的考察と計画論的展開」早稲田大学学位論文、1992. 10、p361～p371
- (10) 新村出編著「広辞苑第五版」岩波書店、p1232、1998. 11
- (11) 鈴木広「都市的世界」誠信書房、1970. 8 p50～p71
- (12) 武内和彦「手法論一般」『農村計画学の展開』農村計画学会編、農林統計協会、1993. 11、p64～p67
- (13) 武内和彦「地域の生態学」朝倉書店、1994. 2
- (14) 徳野貞雄「現代農山村の内部構造と混住化社会」『地域社会学の現在』ミネルヴァ書房、2002. 7、p217～p237
- (15) 戸沼幸市「人口尺度論 居住環境の人間尺度」彰国社1980. 12
- (16) 永田恵十郎「地域資源の国民的利用 -新しい視座を定めるために-」農山漁村文化協会、1988. 12
- (17) 西川潤「内発的発展論の起源と今日的意義」『内発的発展論』東京大学出版会、1992. 2
- (18) 農業土木学会編「農村計画学 農業土木から農村整備への展開」社団法人農業土木学

会、1992. 7、p1～p14

(19)農林水産省農村振興局「第2回農山村振興研究会 参考資料3 農山村の人口および集落の動向」2001. 8

(20)野嶋慎二「まちづくりとライフスタイル 都心定住・都心居住像」『まちづくりの科学』鹿島出版会、1999. 9、p104～p113

(21)蓮見音彦「苦悩する農村 国の政策と農村社会の変容」有信堂、1990. 7

(22)長谷川昭彦他「過疎地域の景観と集団」日本経済評論社、1996. 11

(23)森川稔「農山村における人の帰還と新来に関する環境計画学的研究」大阪大学学位論文、1986. 1

(24)山本努「現代過疎問題の研究」恒星社厚生閣、1996. 9

(25)吉阪隆正、他「圏域的計画論 新しい地域計画の視点」財団法人農林統計会、1981. 3

(26)米山俊直「都市と農村」財団法人放送大学教育振興会、1996. 3、p9～p17

(27)渡辺兵力「農村の計画 村づくりの新しい考え方」養賢堂、1966

(28)W. G. ベニス/P. E. スレーター 佐藤慶幸訳「流動化社会 一時的システムと人間」ダイヤモンド現代選書、1970. 3、p205～p216

(29)Y・トゥアン、小野有五・阿部一訳「トポフィリア 人間と環境」せりか書房、1992. 10

第2章

(1)小田切徳美「直接支払制度の特徴と集落協定の実態 -中山間地域で何が進んでいるのか?-」『21世紀の日本を考える<食料・農業・農村>第14号』社団法人農山漁村文化協会、p4～p25、2001. 8

(1)加藤仁美、他「集落の共同空間」『図説集落』都市文化社、p255～p259、1989. 8

(3)齋木崇人「地形立地と形態」『図説集落』都市文化社、p103～p108、1989. 8

(4)齋木崇人「農村集落の地形的立地条件と空間構成に関する研究」東京大学学位論文、p9～p22、1986. 2

(5)斎藤広子「居住者による住環境の共同管理」『まちづくりの科学』鹿島出版、p231～p241、1999. 9

(6)長野市「中山間地域等直接支払長野市基本方針」2000. 7

(7)長野市「長野市中山間地域等直接支払事業集落協定書」2001. 4

(8)中村民也、他「集落空間の計画学 農村集落のかたち」農村工学研究 35、財団法人農村開発企画委員会、p25～p44、1983. 11

(9)山崎義人、他「長野市の山間部の集落における共同の維持管理の差異とその要因に関

する研究」日本建築学会計画系論文集、第 572 号、2003. 10

第 3 章

(1) 後藤春彦、三宅諭、村上佳代、山崎義人「都市と農村を複眼的に眺める視座」、2001 年度日本建築学会大会（関東）研究懇談会資料・都市と田園のグランドデザイン-21 世紀都市・田園論、p5～p12、2001. 9

(2) 細田祥子「中山間地域における地域外家族による農作業の労働力の意義 ～都市と農村をまたぐ家族像の展望」早稲田大学修士論文 2003. 2

(3) JA 長野中央会「農業経営指標」1998

第 4 章

(1) 藍澤宏「農村居住者の生活環境評価による地域類型」日本建築学会論文報告集第 331 号、p84～p93、1983

(2) 稲垣尚友「トカラの地名と民俗 下」、ボン工房、p131、1973

(3) 財団法人日本離島センター「2001 離島統計年報」2002. 4

(4) 田辺員人「条件不利地域対策としての離島法」『地域開発』No2、p12～p17、1993

(5) 鳴海邦碩、金益煥「居住歴からみた農村の居住環境評価に関する研究」日本都市計画学会学術論文集、p343～p348、1987

(6) 藤本信義、他「地方都市整備の方向性に関する住民評価に関する研究」日本都市計画学会学術論文集、p391～p398、1987

(7) 山崎義人・後藤春彦・村上佳代「島民生活の体系的把握による小宝島の生活環境に関する研究 ～離島の人口定着と地域維持に関する研究～」日本建築学会計画系論文集第 500 号、p161～p168、1997. 10

(8) 山崎義人「島人の生活（生業）から、島づくりの展望を考える」『若手計画研究者の視点と方法 1999 年度 日本建築学会農村計画委員会春季学術研究会 資料集』日本建築学会農村計画委員会、p10～p17、1999. 6

(9) 吉阪隆正『住居学』、相模書房、P 262～P 274、1965

第 5 章

(1) 加藤仁美「集落における共同性の社会・空間構造と環境管理」、日本建築学会計画系論

文集、第 518 号、p173～p180、1999. 4

(2) 瀬戸内町「自治会規約作成資料」、1991

(3) 松本通晴、他 編「都市移住の社会学」、世界思想社、1994. 6

(4) 丸山弘敏「人口流入過程における『集落構造』の変化と転入者の役割～鹿児島県大島郡の瀬相集落を事例として～」早稲田大学修士論文、2002. 2

(5) 長谷川昭彦「近代化のなかの村落、農村社会の生活構造と集団組織」、日本経済評論社、1997. 2

終章

(1) 日本人口学会編「人口大辞典」培風館、2002. 6、p113

(2) 山下仁「制度の設計者が語るわかりやすい中山間地域等直接支払制度の解説」大成出版会、2001. 8、p191～p192

(3) 山崎丈夫「法人格取得の意義と手続き-認可地縁団体としての権利能力の保有-」『自治会町内会情報誌まちむら 60 号』財団法人あしたの日本を創る協会、p44～46、1997. 12

図表リスト

第1章

- 図 1-1 人間と集落環境とのかかわり
- 図 1-2 人間と集落環境のかかわりとしての家族社会・集落社会
- 図 1-3 都市・地域における流動の枠組み
- 図 1-4 人間（集団）の2つの移動の仕方の整理
- 図 1-5 研究のフロー
- 表 1-6 本研究で扱う対象

第2章

- 図 2-1 長野市の概要と対象集落の位置
- 表 2-2 維持管理を行った集落数
- 図 2-3 集落タイプのフロー
- 図 2-4 集落の分布と集落タイプの結果
- 表 2-5 7つの維持管理グループ毎の維持管理した集落の割合
- 図 2-6 共同の維持管理のタイプの整理
- 図 2-7 集落の立地する土地の形状によるタイプフロー
 - 図 2-7-1 山腹タイプのブロックダイアグラム
 - 図 2-7-2 谷間タイプのブロックダイアグラム
- 表 2-8 土地条件と各タイプのクロス集計
- 図 2-9 土地条件にみる各タイプ間の有意差
- 図 2-10 1970 稲作面積率と各タイプの関係
- 図 2-11 1970 稲作面積率にみる各タイプ間の有意差
- 表 2-12 ヒアリング対象集落の規模比較（2000年農業センサス）と調査日程
- 表 2-13 ヒアリング結果（水利システムの違い）
- 表 2-14 ヒアリング結果（道普請の違い）

第 3 章

表 3-1 調査の概要

図 3-2 赤田区の位置図

図 3-3 赤田区の人口及び耕作放棄地面積の推移

図 3-4 居住者および農業従事者の 5 歳階級別人口

表 3-5 地域外家族の有無別にみる農家の特徴

図 3-6 農家の年齢分類

図 3-7 年齢分類にみる農地面積の内訳

表 3-8 年齢分類毎の農家の特徴

図 3-9 地域外家族の 5 歳階級別人口

図 3-10 地域外家族の年齢分類

表 3-11 農家の年齢分類毎にみた地域外家族の特徴

図 3-12 農家と地域外家族の関係

図 3-13 単位面積あたりの労働力と地域外家族の労働力の割合

図 3-14 単位面積当たりの平均日数

図 3-15 作業内容別の労働力とそれに占める地域外家族の労働力の割合

図 3-16 地域外家族の年齢分類毎にみた労働力の割合

図 3-17 地域外家族の年齢分類毎にみた人数と平均日数

図 3-18 地域外家族の年齢分類毎にみた作業内容別の労働力

図 3-19 地域外家族の労働力の量に対する農家による満足度とその理由

図 3-20 地域外家族の労働力の量の増加を希望する農家の割合

図 3-21 地域外家族の労働力の質に対する農家による満足度とその理由

図 3-22 農家の年齢分類毎にみる代替労働支援主体の有無

図 3-23 農家の年齢分類毎にみた代替労働支援主体の種類

表 3-24 代替労働支援主体の有無別の困ること

図 3-25 農家の年齢分類毎にみた潜在的耕作放棄地の有無の割合

図 3-26 全農地面積に占める潜在的耕作放棄地の割合

図 3-27 年齢分類毎の農地面積に占める潜在的耕作放棄地の割合

図 3-28 2 章と 3 章の成果の整理

第4章

- 図 4-1 小宝島位置図
- 図 4-2 人口・世帯数の推移と施設整備
- 表 4-3 島民のプロフィール
- 図 4-4 食材入手による世帯の類型化
- 図 4-5 類型毎の食材入手とゴミ処理
- 図 4-6 3つの領域
- 図 4-7 行動パターン毎の行動
- 表 4-8 7つの行動パターンと主な行動領域の関係
- 表 4-9 満足度・重要度・コメント数・相関係数と主成分ベクトル値
- 図 4-10 クラスタ樹形図
- 図 4-11-1 島民評価の散布図（Ⅰ軸×Ⅱ軸）
- 図 4-11-2 島民評価の散布図（Ⅰ軸×Ⅲ軸）
- 図 4-11-3 島民評価の散布図（Ⅰ軸×Ⅳ軸）
- 表 4-12 クラスタ分析による評価グループ毎の属性
- 表 4-13 評価グループ毎のコメント集計
- 表 4-14 島民のプロフィールと調査結果
- 図 4-15 島民生活の総合化
- 図 4-16 6つの生活系の抽出

第5章

- 図 5-1 瀬戸内町の位置と人口推移（国勢調査）
- 図 5-2 瀬相集落の概要
- 図 5-3 瀬相集落の人口・世帯数の推移と対象時期の設定
- 表 5-4 調査の概要
- 図 5-5 集落活動と集落社会、共用空間の利用管理との関係
- 表 5-6 集落活動の変化
- 図 5-7 因果関係の整理
- 表 5-8 転入者のプロフィール
- 表 5-9 5つの集落活動と集落社会、利用管理との関係
- 図 5-10 男女別の参加状況

図 5-11 参加状況の理由のコメント

図 5-12 転入者の集落活動への参加状況の類型フロー

表 5-13 参加状況の類型と属性の関係

図 5-14 転入者が集落活動の変化に与えた影響

図 5-15 4章と5章の成果の整理

終章

図終-1 地域づくりへの展開プログラム

謝辞

本論文は、早稲田大学大学院において、後藤春彦教授のご指導のもとで取り組んできた研究を取りまとめたものです。今年で後藤春彦研究室設立から10周年を迎えますので、筆者が農山漁村を研究対象とし、右も左もわからずに研究活動をはじめてからも10年という月日が流れたこととなります。その間には、一度は民間コンサルタントに就職し、都市計画・まちづくりの実務を行いました。修士課程で抱いた問題意識を深めたく思い、再度、大学院の博士後期課程にて研究活動を行うこととしました。後藤春彦教授には、その際にも、転身に関わるさまざまことにご配慮いただきました。また、研究を進めて行くにあたり、研究の主題設定から取りまとめに至るまで、並々ならぬご指導を賜りました。さらに、研究室生活の様々な場面において、貴重なご教示を多数いただきました。ここに、深く感謝の意を表させていただきます。

本論文は、フィールド調査を中心に進めてきたものであり、それぞれの研究対象地の地域住民の方々や自治体の方々のご理解とご協力のもとで研究を進めることができました。厚くお礼申し上げます。

大学院における研究過程において、ご指導を頂いた諸先生にも感謝の意を表します。特に論文作成と審査の過程において、戸沼幸市教授からは、研究に対する基本的な姿勢と研究の意義についてご教示を賜りました。佐藤滋教授からは、論の展開からまとめ方に至るまで貴重なご指導を賜りました。井手久登客員教授からは、造園学・農村計画学の視座から論文全体にわたり丁寧なご指導を賜りました。心から感謝いたし、御礼申し上げます。

私が中心的に進めてきたゼミである、修士課程における離島研究グループや、博士後期課程における現在の地域共生研究グループに参加した、多くの卒論生や大学院生とは、議論を深めるとともに協力を得ることができました。特に本論文においては、丸山敏弘氏、細田祥子氏によるところが多大であります。また、後藤春彦研究室の仲間たちとは、馬鹿げたことをしながらも、真剣な刺激をしあい、苦しい中でも楽しみを忘れずに研究をすすめることができました。厚く感謝いたします。

本論文は、早稲田大学特定課題研究費、鹿島科学技術振興財団、実吉奨学会の助成により行われた成果の一部でもあります。記して謝意を表します。

最後に、私事ながら、会社を退職し学生をやり直すわがまを許し、その他、さまざまな心配をかけながらも支えてくれた、家族に感謝したいと思います。